

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 5

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

①千々布敏弥先生との対談

— 「主体的・対話的で深い学び」が施策化された背景・舞台裏—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください



※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



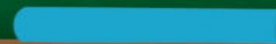
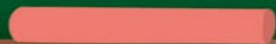
千々布敏弥 先生のご紹介

ちちぶ としや

国立教育政策研究所 研究企画開発部
総括研究官



九州大学大学院博士課程中退、文部省入省。その後、私立大学教員を経て、1998年から国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）の研究官となり、現在に至る。



今回の企画（Number5）

千々布先生の新著



『先生たちのリフレクションー主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣』
教育開発研究所（2021年11月刊行）

から、大きく2点についてご説明いただき、溝上と対談をして理解を深めます。

① 「主体的・対話的で深い学び」が施策化された背景・舞台裏

② 佐藤学による授業研究批判

石井英真による佐藤学批判と教授学再興

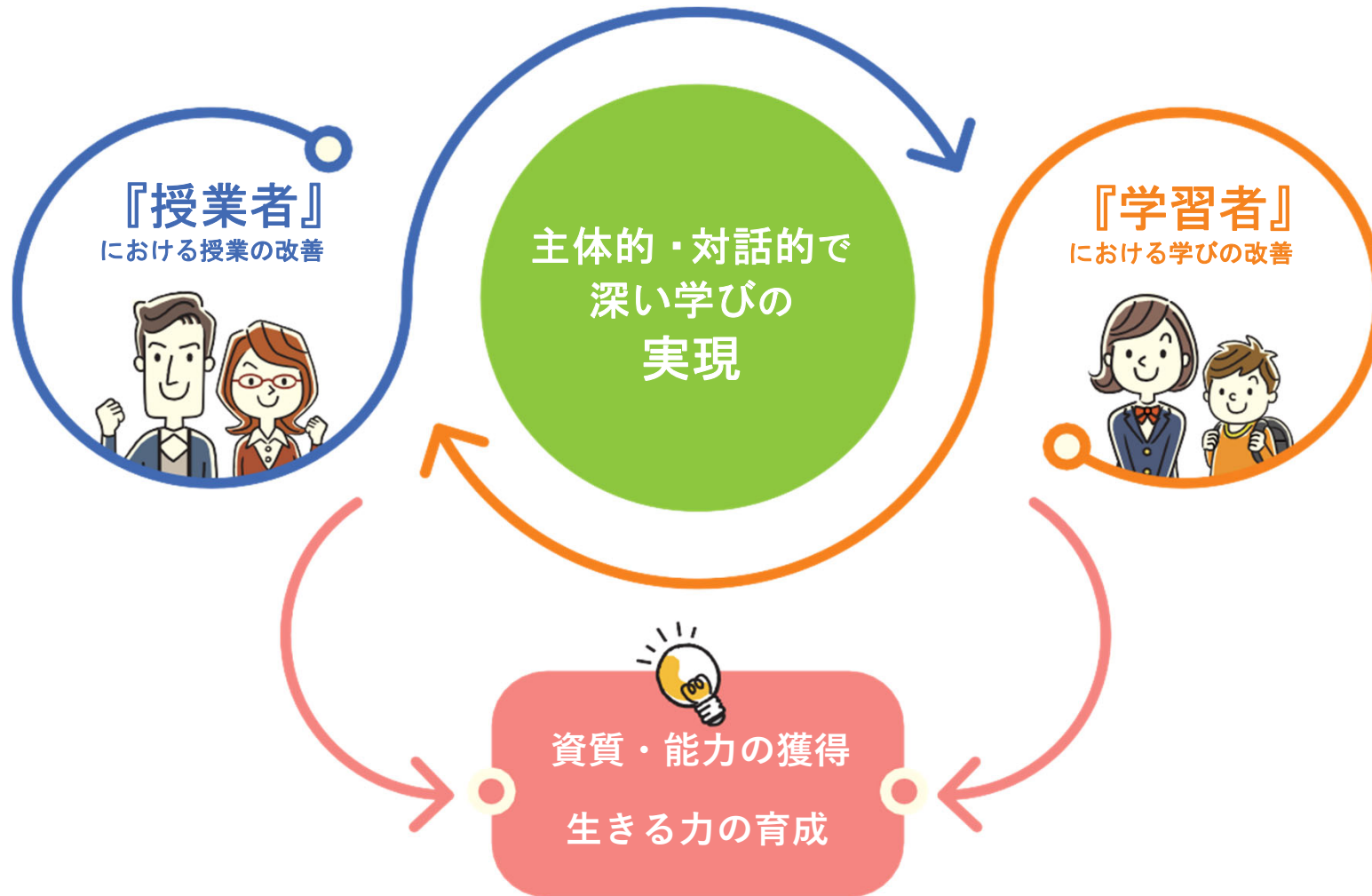
それではご覧ください

主体的・対話的で深い学びに向けて 授業研究をどう構築していくか

千々布敏弥
国立教育政策研究所



学習者の視点と授業者の視点の往還





令和3年度 教育課程研究指定校事業研究協議会

<オンライン開催>

令和4年2月2日(水)・3日(木)・4日(金)

参加申込み受付中

【令和4年1月21日(金)締切】

NIER NOW

◀ 令和3年度 教育研究公開シンポジウム
高度情報技術が教育にもたらすインパクト

◀ 令和3年度 国立教育政策研究所
教育課程研究指定校事業研究協議会

◀ 令和3年度 全国教育研究所連盟
研究協議会(静岡大会)が開催されました

📅 イベント情報

📅 イベント情報 ▶

令和4年 1月11日 [令和3年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会「新しい時代の創造的な学習空間づくりー海外と日本の事例からー」の開催](#) について
サイトは([こちら](#))

令和3年12月21日 [国立教育政策研究所 令和3年度教育研究公開シンポジウム 高度情報技術が教育にもたらすインパクトー教育実践・教育研究・教育行政の観点からー](#) について
サイトは([こちら](#))

📖 研究紹介・研究成果 ▶

国立教育政策研究所で行われているプロジェクト研究など、主な研究を御紹介します。

🔍 検索・閲覧 ▶

本研究所の研究成果や教育関連コンテンツの検索・閲覧ができます。

ご視聴有難うございました
—To be continued—
チャンネル登録をお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属
- ※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。
- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学―他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学―適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ―「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るかー』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質―「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題ー』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



著作紹介

溝上 慎一 (2020).『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンドューラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価

